

平成28年度事業報告

自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日

I. 展覧会

1. 第45回「日本の書展」直轄展

下記の直轄4展を開催。45回直轄4展の出品者総数は3,463名で、44回展の3,515名に比べ52名減少。入場者数は、直轄4展合計で14,386名、前回の16,077名に比べ1691名減少。

41回展（平成25年）から行っている、図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品プロマイド2枚ずつの贈呈は、今展も引き続き行った。

今年は「日本の書展」45周年という節目の回であるため、4展とも開催披露祝賀会の前に記念講演会を開催した。今、書道界では2つの協議会を立ち上げ、書写・書道教育の充実および日本の書道文化のユネスコ無形文化遺産登録を目指し、書道界一丸となって活動を行っているため、その活動に関連するパリユネスコ本部の勤務経験者、文化庁無形文化遺産特別委員会委員、文部科学省中央教育審議会教育課程部会ワーキンググループ委員を講師に招き、約1時間の講演を行った。祝賀会に出席する書家の聴講だけではなく、一般聴講者からの問い合わせや参加もあり、講演内容もスクリーン映写や資料配布、対談形式など多様で、節目の記念事業に相応しい講演会となった。

また、43回展（平成27年）から各直轄展の会場内で出品作家（主に役員）を講師としての1時間程度のギャラリートークを行ったが、各会場とも通常の土日よりも集客数が増し、内容も好評だったため、今展も引き続き行った。4展とも80～100名の参加者があり、作品解説に加え、作家紹介や展覧会を訪れた際の作品の見方など、トーク内容も多様で大変好評だった。

全展の展覧会場、開催披露祝賀会会場には、「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録推進運動の一環として、ポスターおよびバナーを掲示し、引き続き広報活動を行った。

(1) 関西展

会期	平成29年6月2日（金）～6月4日（日）
会場	大阪国際会議場（3階イベントホール）
主催	（公財）全国書美術振興会 産経新聞社
後援	文化庁
協賛	（公社）日本書芸院
記念講演会	平成29年6月2日（金）16:00～17:10 リーガロイヤルホテル 2階 「桐」 演題 硯箱の美—漆工芸と書道文化 講師 内田篤呉氏 聴講人数 279名
開催披露祝賀会	平成29年6月2日（金）17:30～19:00 リーガロイヤルホテル 2階 「山楽」 出席者 315名
ギャラリートーク	平成29年6月4日（日）11:00～12:00 大阪国際会議場 3階イベントホール 講師 田中徹夫評議員

関西展の出品数は、巨匠15点、代表91点、委嘱31点、招待394点、秀拔選528点、合計1,059点、会期中の入場者数は1,597名だった（前回44回展の入場者数は1,526名）。産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得ている。

出品者の減少と経費節減のため、前回同様、大阪国際会議場4/5スパン、会期を金・土・日曜日の3日間にして開催した。

会期初日の6月2日（金）の16時から、リーガロイヤルホテル2階「桐」において記念講演会を開催した。MOA美術館館長、漆工史学会副会長の内田篤呉氏を講師に招き、「硯箱の美ー漆工芸と書道文化」と題した講演を行った。スクリーン映写と資料を取り混ぜての解説で279名の聴講者が参加し、17時10分に終了した。

また、同日17時30分から、リーガロイヤルホテル2階「山楽」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて315名の出席があった。祝賀会では、当会高木聖雨代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、産経新聞社専務取締役・大阪代表 齋藤勉氏から共催者挨拶があった後、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の乾杯発声で祝宴に入り、19時過ぎに終了した。

(2)中部展

会 期 平成29年6月7日（水）～6月11日（日）

会 場 愛知県美術館ギャラリー

（愛知芸術文化センター8階 展示室A～J）

主 催 （公財）全国書美術振興会 中日新聞社

後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市

各県市教育委員会 東海テレビ放送

協 賛 （公社）中部日本書道会

記念講演会 平成29年6月7日（水）16:30～17:30

名古屋東急ホテル 3階 「バロック」

演題 伝統工芸と硯

講師 唐澤昌宏氏

聴講人数 169名

開催披露祝賀会 平成29年6月7日（水）18:00～19:30

名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」

出席者 314名

ギャラリートーク 平成29年6月10日（土）14:00～15:00

愛知県美術館ギャラリー

講師 関根玉振中部展委嘱作家

中部展の出品数は、巨匠15点、代表91点、委嘱17点、招待172点、秀拔選482点、合計777点、会期中の入場者数は2,711名だった（前回44回展は愛知県美術館ギャラリーと名古屋市博物館の2会場合計で入場者数は3,417名）。

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。

会期初日の6月7日（水）の16時30分から、名古屋東急ホテル3階「バロック」において記念講演会を開催した。東京国立近代美術館工芸課長の唐澤昌宏氏を講師に招き、「伝統工芸と硯」と題した講演を行った。スクリーン映写と資料を取り混ぜての解説で169名の聴講者が参加し、17時30分に終了した。

また、同日18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて314名の出席があった。

祝賀会では、当会高木聖雨代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、中日新聞社常任顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、樽本樹郎顧問の書家代表挨拶へと続き、東海テレビ放送役員待遇事業局専門局長 加藤昭宏氏の乾杯発声で祝宴に入り、19時30分に終了した。

(3)東京展

会期 平成29年6月15日(木)～6月25日(日) 6月20日(火)は休館日
会場 国立新美術館(展示室1A・1B・1C・1D)
主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社
後援 文化庁

記念講演会 平成29年6月16日(金) 11:00～12:00
パレスホテル東京 4階 「山吹」
演題 対談 日本の書道文化とユネスコの無形文化遺産
講師 松浦晃一郎氏 愛川フォール紀子氏
聴講人数 397名

開催披露祝賀会 平成29年6月16日(金) 12:30～14:15
パレスホテル東京 2階 「葵」
出席者 520名

ギャラリートーク ①平成29年6月17日(土) 14:00～15:00
国立新美術館 展示室
講師 師田久子理事
②平成29年6月24日(土) 14:00～15:00
国立新美術館 展示室
講師 西村東軒評議員

東京展の出品数は、巨匠15点、代表91点、委嘱39点、招待602点、秀拔選742点、東京展合計1,489点、他展の委嘱(関西展委嘱31点・中部展委嘱17点・九州展委嘱13点)も加わり、総展示数1,550点。

会期中の入場者数は8,340名だった(前回44回展の入場者数は9,590名)。

会期2日目の6月16日(金)の11時から、パレスホテル東京4階「山吹」において記念講演会を開催した。第8代ユネスコ事務局長、元フランス共和国特命全権大使、日本書道ユネスコ登録推進協議会特別顧問の松浦晃一郎氏、元ユネスコ無形文化遺産担当部長、文化庁無形文化遺産アドバイザーの愛川フォール紀子氏を講師に招き、「日本の書道文化とユネスコの無形文化遺産」と題した講演を行った。資料を使つての対談形式で397名の聴講者が参加し、12時に終了した。

また、同日12時30分から、パレスホテル東京2階「葵」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて520名の出席があった。

祝賀会では、当会高木聖雨代表理事・理事長の主催者代表挨拶から始まり、衆議院本会議出席のため、すぐに退席される衆議院議員・書道国会議員連盟会長 河村建夫氏の来賓祝辞へと続き、荒船清彦代表理事・会長から主催者代表挨拶、株式会社共同通信社代表取締役常務 岩永陽一氏から共催者挨拶があった後、前理事長の津金孝邦名誉顧問の書家代表挨拶・乾杯発声で祝宴に入り、14時15分に終了した。

(4)九州展

会 期 平成29年6月29日(木)～7月4日(火)
 会 場 福岡アジア美術館(7階企画ギャラリーABC・8階交流ギャラリー)
 主 催 (公財)全国書美術振興会 西日本新聞社
 後 援 文化庁

記念講演会 平成29年6月29日(木) 16:30～17:30
 ホテルオークラ福岡 3階 「オークルーム」
 演題 次期学習指導要領における書写書道教育について
 —学校の役割、書塾の役割—

講師 長野秀章氏
 聴講人数 130名

開催披露祝賀会 平成29年6月29日(木) 18:00～19:30
 ホテルオークラ福岡 4階 「平安の間」
 出席者 110名

ギャラリートーク 平成29年7月1日(土) 14:00～15:00
 福岡アジア美術館 企画ギャラリー
 講師 二宮欣山九州展委嘱作家

九州展の出品数は、巨匠15点、代表91点、委嘱13点、招待126点、秀拔選211点、合計456点、会期中の入場者数は1,738名だった(前回44回展の入場者数は1,544名)。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

会期初日の6月29日(木)の16時30分から、ホテルオークラ福岡3階「オークルーム」において記念講演会を開催した。東京学芸大学名誉教授、全日本書写書道教育研究会理事長の長野秀章氏を講師に招き、「次期学習指導要領における書写書道教育について—学校の役割、書塾の役割—」と題した講演を行った。スクリーン映写と資料を取り混ぜての解説で130名の聴講者が参加し、17時30分に終了した。

また、同日18時、ホテルオークラ福岡4階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて110名の出席だった。

レセプションでは、当会高木聖雨代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、西日本新聞社営業本部副理事 伊藤陽氏から共催者挨拶があった後、九州国立博物館館長 島谷弘幸氏の来賓挨拶・乾杯発声で祝宴に入り、19時30分に終了した。

2. 第45回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の106点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方8カ所を巡回する。現在2番目の山陰展を開催中。

第45回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	29.7.20～7.23	195	1,463
2	島根	松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	29.8.31～9.4	198	639
3	青森	青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	29.9.14～9.18	282	654
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	29.9.28～10.3	615	18,296
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	29.10.18～10.23	547	4,695
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	30.2.15～2.18	(208)	(3,448)
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	ながの東急百貨店	30.3.1～3.6	(237)	(1,565)
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	30.4.14～4.19	(262)	(1,915)

※網かけ部分は、次期平成29年度事業 ※()内の数字は前回第44回展の実績

3. 第45回「日本の書展」東京展 公募臨書

会 期 平成29年6月15日(木)～6月25日(日) 6月20日(火)は休館日
前期展示 平成29年6月15日(木)～6月19日(月)の5日間
後期展示 平成29年6月21日(水)～6月25日(日)の5日間
会 場 国立新美術館(展示室1Dの一部 51～53室の3室)
主 催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社
後 援 文化庁

2012(平成24)年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回6回目となる。出品点数は962点で、前回の906点より56点増で、ほぼ安定した点数を保っている。

平成29年1月19日に、国立新美術館審査室で審査委員10名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査をし、結果、入選数は477点、入選率は49.6%となった。内訳は下表参照。

今回より出品整理料は2,000円に改定した。入選作品は表具をして国立新美術館の51～53の3室に展示、壁面展示は前回同様2段掛けとしたが、今回からよこ作品の寸法規定を半切から半切1/2に変更した影響なのか、よこ作品の出品数が増え、展示台を3室に設置できる最大数使用して机上展示を行った。

展示後、入選者には表装作品と共に、一色白泉参事筆耕の「入選証」が贈られ好評だった。

第45回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示		机上展示		計
	たて	よこ	よこ	篆 刻	
前期展示	168	68		3	239
後期展示	167	68		3	238
入選数合計	335	136		6	477

第45回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢 字		仮 名		篆 刻
	たて	よこ	たて	よこ	
		317	22	18	114
	339		132		
入選数合計	477				

II. 書写・書道教育推進協議会

活動報告は、第4議題にて。

III. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

活動報告は、第5議題にて。

IV. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第45回「日本の書展」直轄展

① 図録 4, 300部

現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。

巻末には、全展招待・秀拔選作家を含む全出品者名簿を掲載。

各出品者には、1冊ずつ贈呈。

- ②出品者本人の作品ブロマイド 7, 196枚
展覧会名・姓号入り はがきサイズ カラー写真 非売品。
各出品者には、出品者本人のブロマイドを2枚ずつ贈呈。
(出品者3, 448名×2枚ずつ、現代書壇巨匠15名のみ×20枚ずつ)
- ③出品者名簿 関西展 13, 700枚
 中部展 11, 400枚
 東京展 20, 600枚
 九州展 6, 800枚
- ④案内はがき 126, 500枚
- ⑤ポスター 580枚

(2)第45回「日本の書展」巡回展

- ①図録(直轄展と同図録) 950部

(3)第45回「日本の書展」公募臨書

- ①出品要項 22, 250枚
- ②入選者名簿 2, 400枚
- ③入選證 540枚

2. 機関誌「書美術」第34号

- 4, 300部
- 平成29年4月1日に発行

3. 第45回「日本の書展」記念講演会講演録

- 3, 000部
- 平成29年9月1日に発行

4. ホームページの更新

5. スマートフォンカバー「One Cover」の発売

V. 書美術功労者の顕彰

文化功労者を受けられた尾崎邑鵬顧問、小山やす子顧問、恩賜賞・日本芸術院賞を受賞された高木聖雨代表理事・理事長の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上